



小学生の校外学習—伊豆分場見学

10月に2校の小学校が来場しました。6日には伊東市立富戸小学校の4年生と5年生45名が、15日には下田市立白浜小学校の5年生13名が、伊豆の生き物や水産業について、当场職員から説明を受けました。児童たちは質問したり、説明をメモするなど、皆、熱心に学

習していました。

当场では、事前に連絡をいただければ見学等に対応します。校外学習の一環としてご利用ください。なお展示室は平日の午前8時30分から夕方4時50分まで自由に見学することができます。



↑展示室での説明

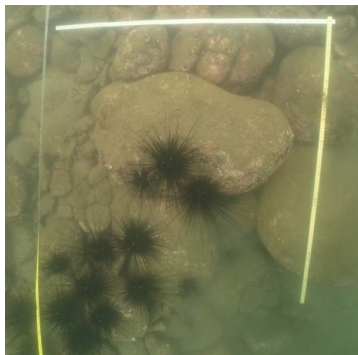
【展示室】磯の魚の水槽展示のほか、伊豆の水産業や海の生物、栽培漁業や資源管理の仕組み、研究成果をパネルや模型を使って分かり易く紹介。海藻おしぼ、はく製、昔の水中カメラや漁具なども見ることができる。



↑魚に餌を与える児童

伊豆の西岸域でガンガゼ調査を実施

伊豆の西岸域では近年ガンガゼが増えています。本種は主に海藻を食べるため、増え過ぎると海藻がなくなってしまう。海藻は貝類など水産動物の食物としてだけでなく、隠れ場、棲み場、さらには産卵場など重要な役割を担っています。今回漁業関係者から依頼を受け、現状を把握するためガンガゼの調査を実施しました。場所によってはガンガゼが多く、海藻を増やすためには除去する必要があると考えられました。



←海底でのガンガゼ生息状況(黒いのがガンガゼ)

【解説】ガンガゼ：ウニの仲間である。非常に細長い棘を持つのが特徴で、湾内などの静穏域でよくみられる。

キンメダイ資源のシンポジウム

10月27日に東京海洋大学で「キンメダイの資源研究の現状と将来」についてのシンポジウムが開催され、研究機関のほか、行政、漁業者など77名の出席がありました。

1都3県(東京都、千葉県、神奈川県、静岡県)や国の水産研究所などから9題の発表が行われ、総合討論では、これまでの調査研究で何が明らかになり、今後何が必要なのかが議論されました。

1都3県海域に加え、より西方海域での漁獲量調査や標識放流調査の必要性が提示されました。



←当场職員の発表

伊豆半島食の祭典 in 道の駅が11月1日(天城越え)、8日(開国下田みなと)で開かれ、伊豆地区の漁協が伊豆産サザエを贅沢に使ったチャウダーを出店します。

11月の予定 ・アワビ類の稚貝の生態を明らかにするために、幼生放流実験を行います。・メタン発酵消化液を利用したスジアオノリの屋外養殖試験を再開します。・西伊豆仁科浜地区で水揚げされるヤリイカの活魚輸送試験を行います。・24日にマダイ放流事業の推進を協議する伊豆地域栽培漁業推進協議会が行われます。・27日に定置網生産技術研修会が伊東市いとう漁協で開催されます。・同27日に水産技術研究所全体の研究発表会が焼津市アトレ焼津で開催されます。

連絡先：静岡県水産技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜 251-1 電話 0558-22-0835
アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu/